

File Converter 利用ガイド

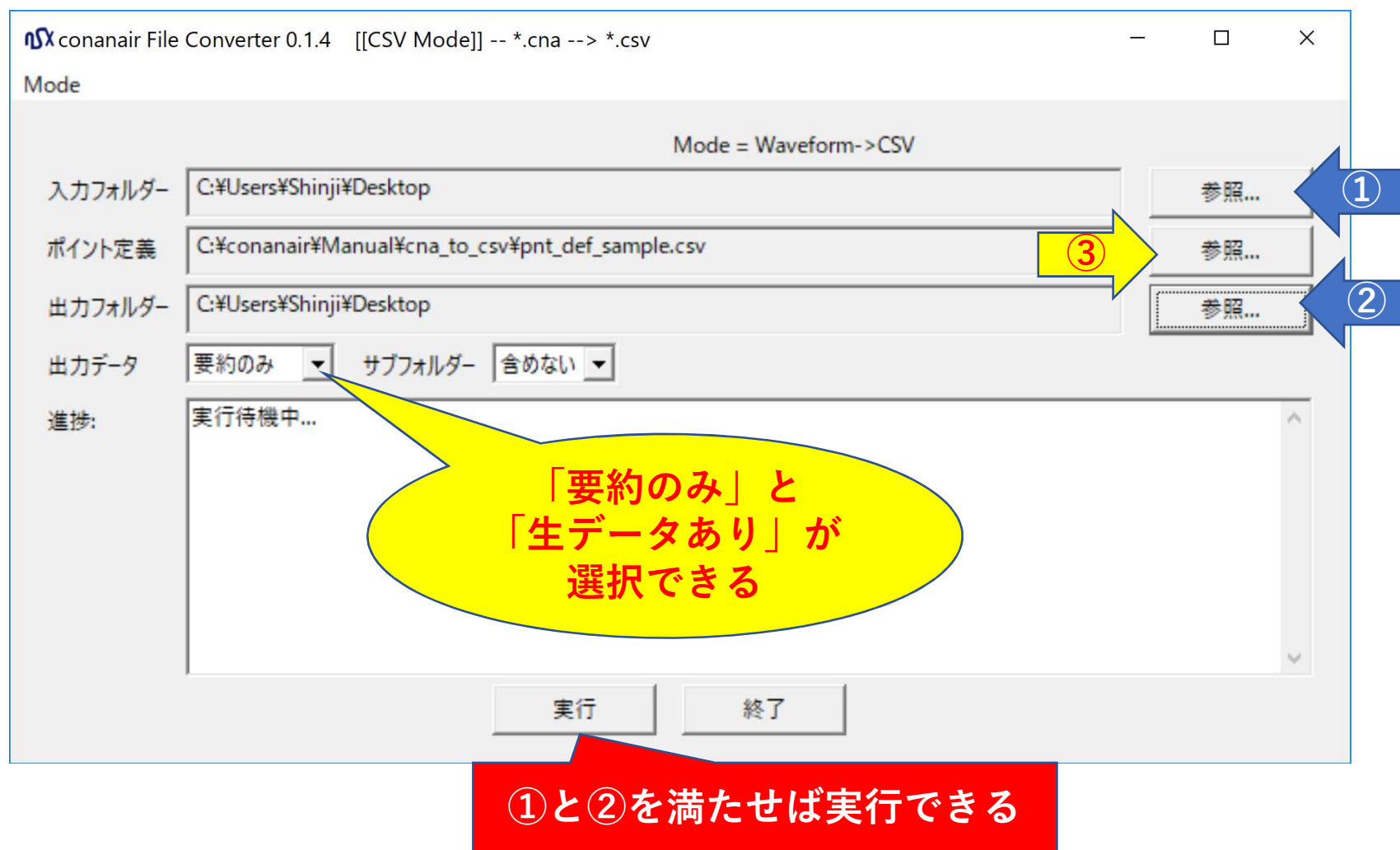
File Converter にて、
conanairからダウンロードしたcan形式ファイルを
下記ファイルに変換することができます。

- ①CSVファイルに変換
- ②FFT出力をCSVファイルに変換（X,Y,Z各軸 3 つに）
- ③FFT出力をconalyzerで扱えるCL1形式ファイルに変換

注：conalyzer[コナライザー]は専用の波形グラフ表示・解析アプリです。

CSV変換

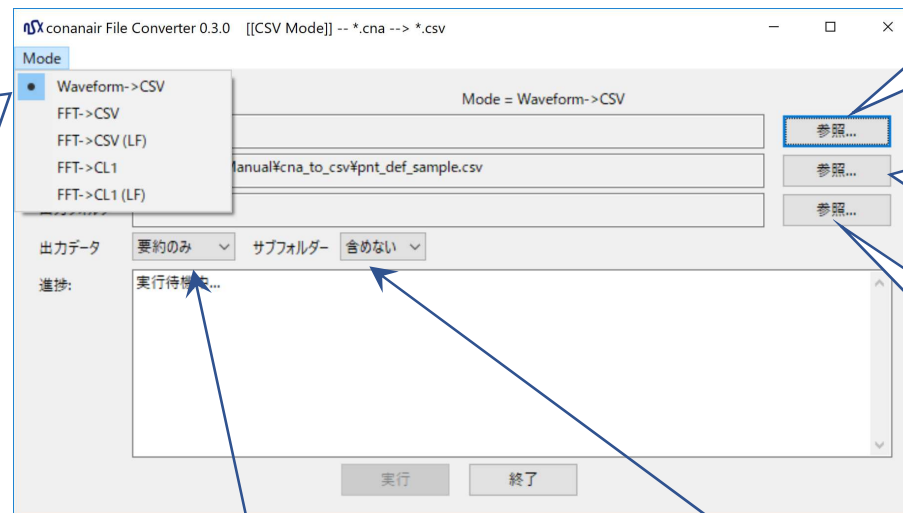
- ① conanairダウンロードファイルの保存先を指定
- ② 変換したCSVファイルの保存先を指定
- ③ 必要に応じて定義ファイルを指定（必須ではない）



FileConvの起動画面

.cnaファイルの各種変換方法

- Waveform->CSV
cnaをCSVに変換する
- FFT->CSV
cnaからのFFT結果をCSVとして書き出す
- FFT->CSV(LF)
FFT->CSVと同じ、ただしLF(低周波数帯域)を含む
- FFT->CL1
cnaからのFFT出力を付属の波形解析ソフト[コナライザー]で使える専用形式、CL1形式で書き出す。
- FFT->CL1 (LF)
FFT->CL1と同じ、ただしLF(低周波数帯域)を含む



変換元cnaのあるフォルダを指定

定義ファイルの情報をCSVに追記したいときに指定なくてもOK

変換後のファイルを保存するフォルダを指定

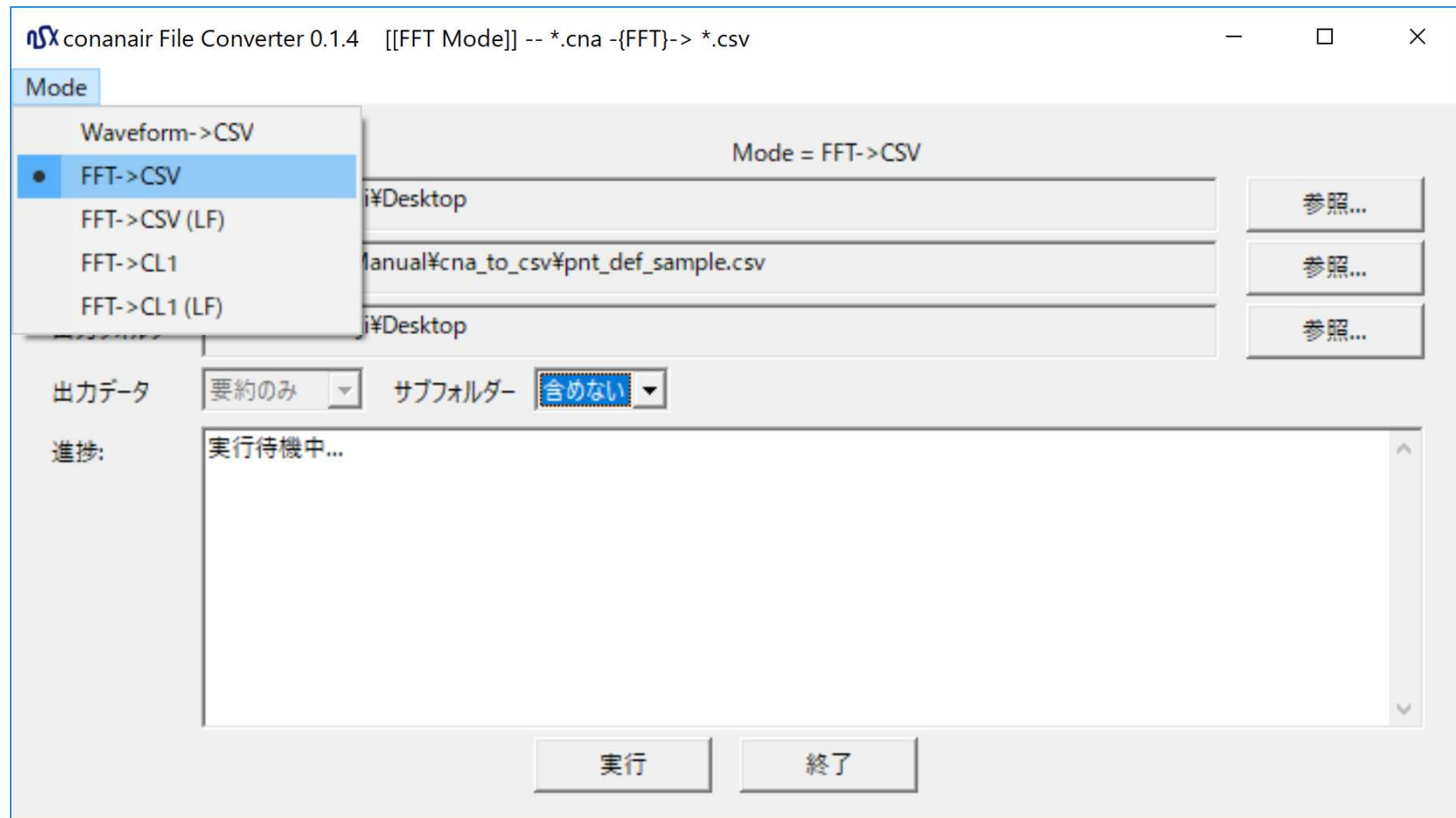
【要約のみ】：デフォルト10秒間の各軸のピーク値、RMSのみを出力する
【生データあり】
要約データに加えて10秒間、32,000Hzの各軸生波形データも出力する

サブフォルダを含めると、指定したフォルダ下のサブフォルダにあるcnaファイルを変換対象にすることができる。
測定箇所ごとにフォルダを分けてcnaファイルを保存して管理する場合などに便利な機能

注) FFTは通常50Hz以下くらいの低周波数帯域は邪魔になるのでフィルターで取り除いている。
LFは低周波数を含むのFFTを出力している。

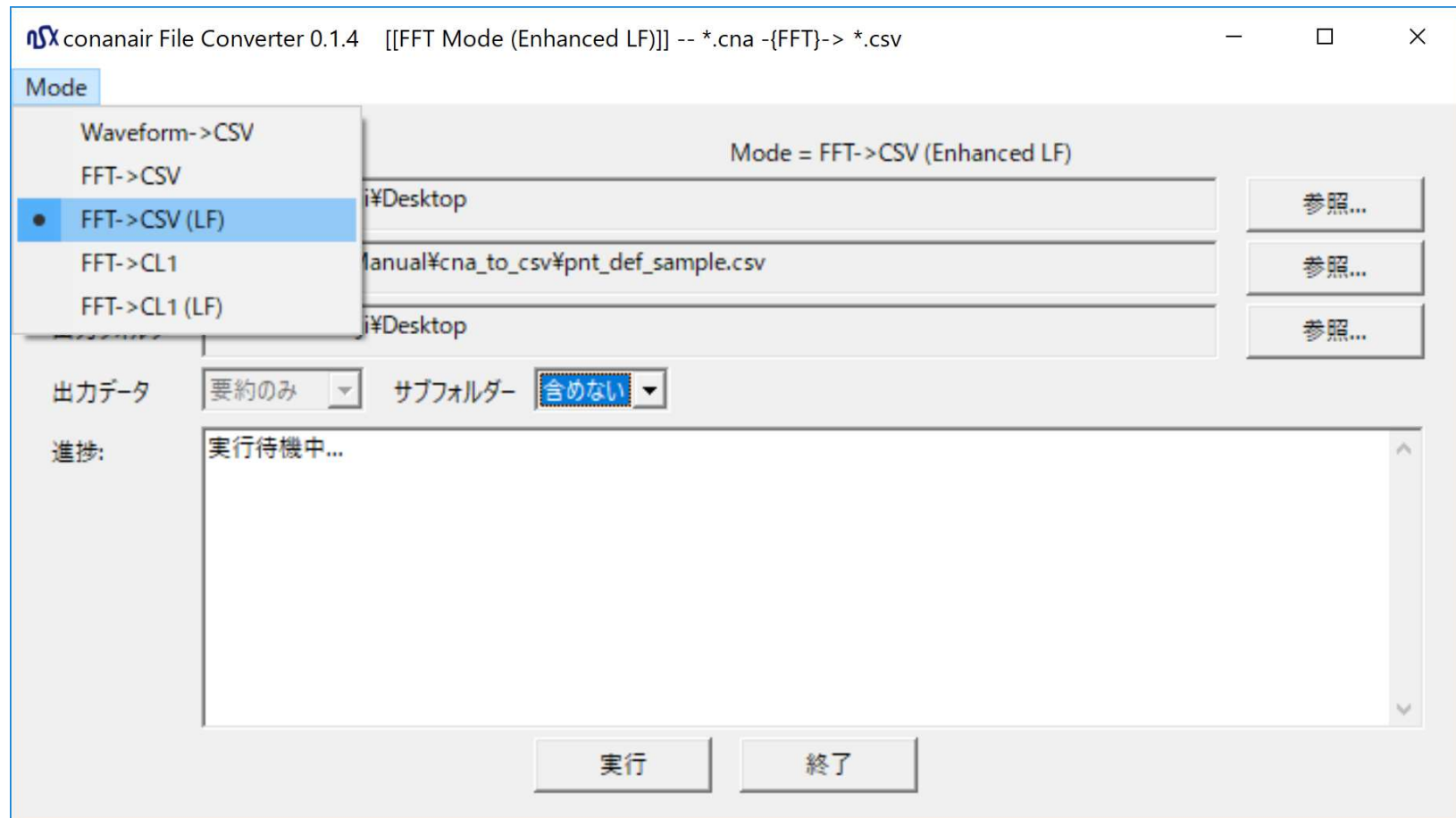
注) 通常、簡易診断用には要約データを利用する
生波形データは、FFTや各種診断ロジックの応用やAIへの応用が可能と考えられる。

FFT結果のCSV出力

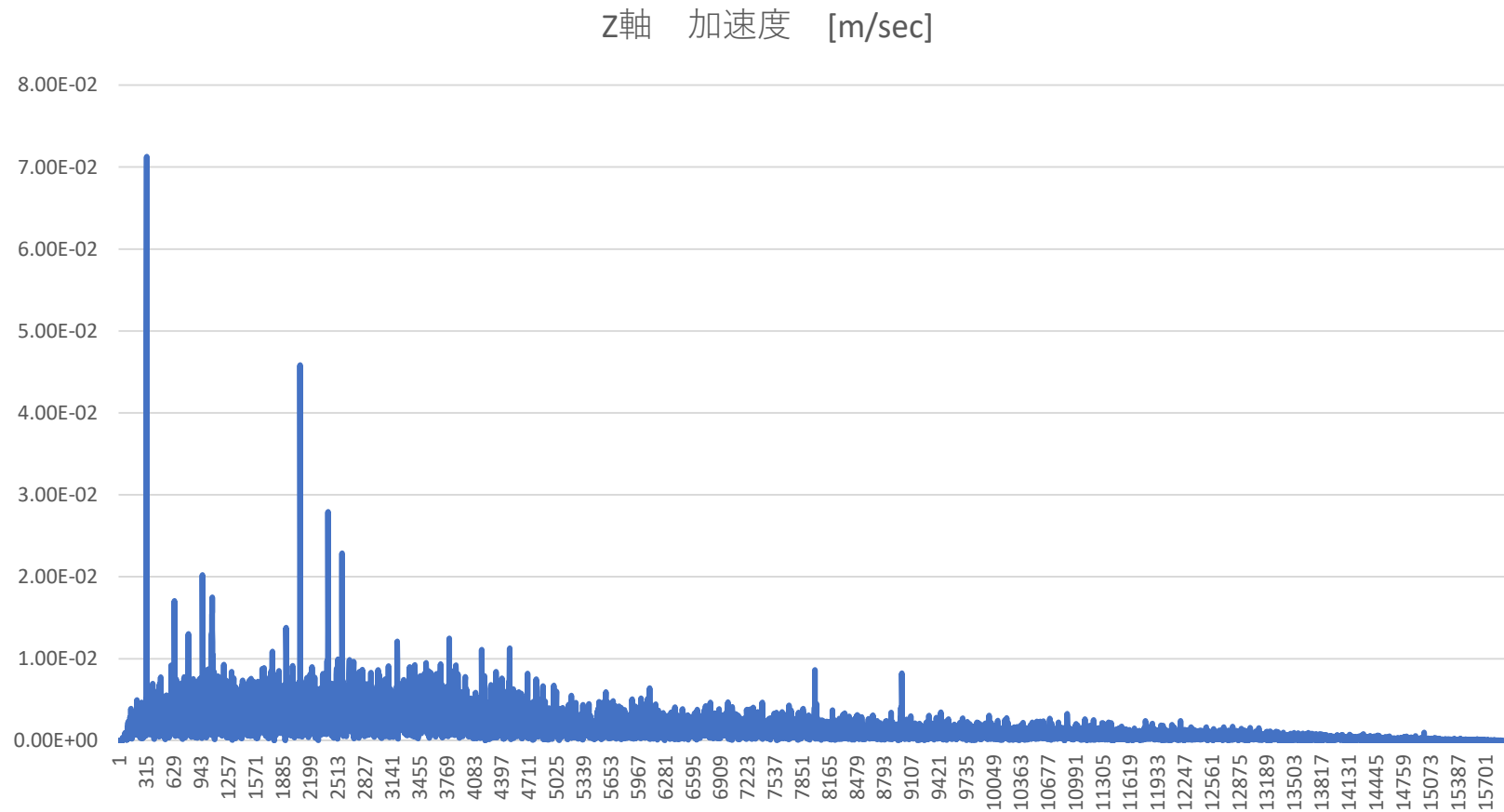


FFT結果のCSV出力（LF）

[約20Hz以下の低周波数成分を含む]



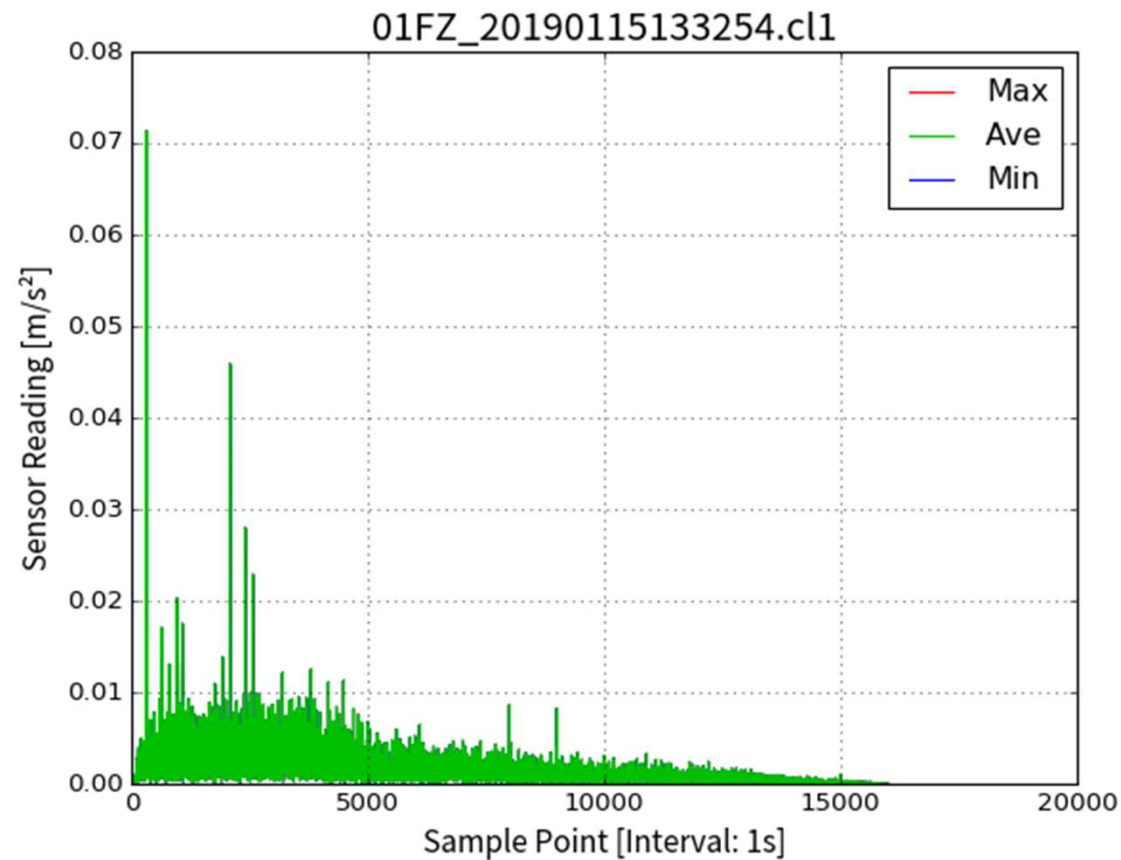
FFT->CSVからエクセルでグラフ



周波数 FFT解像度=0.1Hz [横軸はデータ数：10で割るとHzになる]

コナライザーでのFFT表示例

CL1形式ファイル



コナライザーではFFT波形の
重ね描きが簡単にできます
【20回のFFTの重ね描き】

